

〈2023年度（R5年度）〉

第16回 地域発『活力・発展・安心』デザイン実践交流会を開催しました

本交流会は、「おおいた教育の日」の趣旨に賛同して、県教育委員会や県内のほとんどの市町村からの発表をいただきながら開催してきました。第16回交流会も、新型コロナウイルスを危惧しつつ平常通りのプログラム（情報交換会を含む）で開催することができました。今年の梅は少し早咲きで散り始めていましたが・・・。



近年、学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の導入と、地域学校協働本部の整備による地域学校協働活動の促進が求められています。昨年までの3年間は、学校の観点から、学校運営協議会やコーディネーターの役割を協議して地域と学校との協働を進めるシステムづくりに寄与してきました。今回はこれまでの3回のテーマを基盤において、地域の様々な活動に焦点を当て、74名の参加者が互いに交流し、活動エネルギーを蓄える交流会にすることが出来ました。

交流会の冒頭に本交流会の開催を後押ししていただいた「中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会」の産みの親・育ての親である三浦清一郎先生（昨年11月にご逝去）のご冥福をお祈りし、黙祷を捧げました。これまでのご指導に心から感謝申し上げます。



※今回も新型コロナウイルスの対策をお願いしつつゆとりの大会議場で開催しました。

テーマ 将来の地域を担う子どもの育成のために学校と協働する地域社会の役割を考える
主催 東国東地域デザイン会議／大分大学教育マネジメント機構基盤教育センター／NPO法人大分県協育アドバイザーネット
会場 「梅園の里」（国東市安岐町富清2244）☆梅が咲き誇る三浦梅園生誕の地☆
期日 令和6年（2024年）2月24日（土）
参加者 74名（教職員・コーディネーター・行政職員・地域住民・研究者等）

■10:00 開会行事

■10:20～12:00 第1部 基調シンポジウム

テーマ：地域社会が学校と協働して子どもを育てるための施策を考える

<登壇者>

大分県の施策の方向性と現状について	大分県教育庁社会教育課	馬場尚登 参事
国東市における学校と社会の協働促進施策について	国東市教育委員会	小俣秀之 教育長
学校が地域社会に求める協働について	別府市立中部中学校	佐藤裕一 校長
大分大学教職大学院の教員養成について	大分大学教職大学院	清國祐二 教授

【コーディネーター】 NPO法人大分県協育アドバイザーネット 中川忠宣 理事長

【概要】

各登壇者がプレゼン資料を使い、本シンポジウムのテーマに沿って、所属の部署での取組みや現状を紹介した後に、登壇者同士の質疑・応答による協議をしました。教育の協働の施策の最終目的は、地域の教材や人材から学ぶことによって、将来の地域づくりに貢献できる人材を育成することにある、という方向性が示されました。会場からの質問を通して、そのためにはこれまで関わらなかった（関わらなかった）人たちにどう関わっていただくかが大きな課題であると同時に、高校生の地域参加の促進の大切さ等の意見が出されました。今後の教育の協働を進めるための施策としては、教職員の意識の問題やコーディネーターの配置とともに、学校運営協議会や地域組織のネットワーク等の地域協働システム作りが求められることがまとめられました。



学校運営協議会や地域組織のネットワーク等の

■12:45～15:30 第2部 活動事例の報告

テーマ：今こそ必要な地域の実践から「地域と学校の協働の視点（出番）」を考える

《1》12:50～13:25 国東市の中高校生の「せっぺの会」の活動について

(国東市) 中野 浄昭氏 (指導者) 古森 星名氏 (高校リーダー)

国東市子ども会ジュニアリーダークラブ「せっぺの会」(会員20名)の活動や目的について①地域子ども会の仲間づくりと活性化を図ること、②活動に必要な知識、技術、指導力を身につけること、③地域イベントや交流会に参加して協調性や友情を深めること等の報告がありました。課題としては、会員増加が急務であることや、今後の方針として学校との協働を探っていることなどが、指導者と高校リーダーから報告がありました。



《2》13:30～14:05 大分市川添校区公民館の子ども達の体験活動について

(大分市) 赤峯 友子 氏

川添校区公民館が取り組んでいる子どもの健全育成の①ふれあい学びの広場推進事業、②学校支援の事業・学習サポート、③子ども達の地域ボランティア、④子ども達の地域行事への参加の事業について報告がありました。その中で、公民館が学校支援の指導者派遣や学校との協働事業を行っている事例は、今後の公民館の役割を示唆するものでした。課題としては、事業に参加できない子どもへの配慮やサポーターの確保、若い人たちの参加の促進等についての報告がありました。



《3》14:15～14:50 「NPO法人こどもサポートにっこ・にこ」の活動について

(杵築市) 小畑 たるみ 氏

1999年に放課後児童クラブ『トトロ』発足、「山香町地域子ども教室推進事業と協働」等の活動を経て、2006年6月に『NPO法人こどもサポートにっこ・にこ』を設立。活動の方針として「子どもの健全育成」を目指して親への支援や、地域づくり、地域のニーズに即した事業、学校と協働した事業等を多岐にわたって展開しています。子育て支援を通して地域社会の再構築をも目指すとともに、今後も地域福祉の充実にも寄与したい旨の報告がありました。



《4》14:55～15:30 「おおいたおやじネットワーク」の活動について

(大分県) 井上 桂太郎 氏

大分市立西の台小学校「ととろクラブ」が発起人となり、大分市内の全小中学校の「おやじの会」に参加を呼びかけ、19校のおやじの会の参加のもとH19.11月に設立し、①子どもたちと一緒に遊ぶ活動(キャンプなど)、②学校教育活動協力(校内環境整備など)、③地域活動協力(防犯パトロールなど)、④おやじの居場所(同じ立場同士の語りの場)などの活動を行っていることが報告されました。



さらに、全国のおやじの会とのネットワークを作りながら「おやじと地域コミュニティ」について等の協議も行っており、今後の「おやじの会」の役割についての報告もありました。

■15:40～16:50 第3部 全体協議

テーマ：学校教育課題へ対応する地域社会の出番をアップデート

【コーディネーター】大分大学教育マネジメント機構基盤教育センター 岡田正彦教授

《前半》参加者の活動や課題を交流する

①日常の取組み中での困っていることについて、高校生の地域活動を進めるうえでの高校の取組み状況、人との交流が苦手な子どもの参加促進等の悩みが出されました。

②地域の方々の学習支援や子どもたちの体験活動、地域の安全・安心等を進めるための自治会との関り方や、そうした活動を推進するためのシステム作りに関する情報交換が行われました。

③地域学校協働活動の智恵・工夫の共有について、取組みの初発段階での着手すべき点や連携を行う際のメリットに関する情報交換が行われました。



《後半》林 浩昭氏にこれからの教育の協働の方向を聞く

最後に、本交流会の林 浩昭運営委員長が県教育委員在任17年3か月という長期間の職を、昨年11月に退任されましたので、教育委員時代の想いや今後について岡田先生からインタビューを行いました。

- 1) 長年教育委員を務められた感想
- 2) 教育委員の活動の中で手応えのあったこと、難しかったこと
- 3) 大分県の教育の課題・方向性について
- 4) 教育委員を終えられて今後の取組や生活について



林先生から「教育委員としての素人の私が、先輩の委員さん方や関係者の方々との協議や交流の中で成長させていただき、長期間の職責を果たせたことに感謝したい。」と話されました。具体的な内容は大分合同新聞（2024, 1, 31）に掲載されていますが、会場の参加者の皆さんから「林先生の生の話が良かった！」という感想をいただきました。

林先生は最後に「地域貢献や農業に関する研究等、これからもすることがたくさんあります。」と今後の生き方への意欲をお話されました。

■最後に、来年も2月の最終土曜日にお会いできることを楽しみにして閉会しました。

さらに、情報交換会でも来年度の再会を誓いながら楽しい1日の交流会を終わることができました。

参加者の皆さん、関係者の皆さんに心から感謝申し上げます。＜主催者一同＞

